

課題番号 : 26指201
研究課題名 : 「研究開発の推進及び評価」に関する研究
主任研究者名 : 石坂幸人
分担研究者名 : 無し.
キーワード : 若手支援、臨床研究、国際医療研究委託費、小規模研究

研究成果 :

背景: 当センターの研究開発力の底上げを図るため、若手研究者および、若手医師対して国際学会参加や英語論文作成を支援する。

研究協力者として、複数の医師、国際医療協力部長、看護部長、看護大学校長が参加し、支援申請課題に対する妥当性を評価し、その結果をもとに支援の可否を決定する。初年度は、申請案件数が予測できなかったため、国際学会参加は、15万円を上限に支援した。

方法:

初年度である今年度は、主に、若手研究者が作成したドラフトの英文校正を支援した。一方、論文の別刷代金やオープンアクセス経費については、支援対象としなかった。同時に支援を受ける論文数は3件までとし、受理されれば、改めて支援申請を行うことができるルールとした。

結果:

1. 英語論文作成支援

総数 28 編の論文作成支援申請があり、27 件が承認され、その内、14 件が年度内に論文化された。支援対象者の多くは、論文化数は 1 編であったが、最大論文化数は 9 編で、次点は 3 編であった。

非承認案件は、和文からの英文起こしの申請案件だった。研究協力者のコンセンサスとして、ドラフトを英文で作成することを最低要件とした。支援内容の多くが、英文ドラフトの校正であったが、2 件は英文校正会社による「包括的な英文校正」が有効に機能し、論文化が可能になった。「包括的な英文校正」は、内容まで踏み込んだ包括的な英文校正で、レビューア一とのやりとりまでカバー可能であるため、効率的な論文化が期待できる。

2. 国際学会参加支援

総数 13 件の支援申請があり、全て、承認された。学会発表後の論文化数はゼロであった。

3. 統計解析用 PC の導入

SSPS や JMP を搭載した PC を 5 台 (戸山 3 台、国府台 2 台) 導入した。次年度では、統計解析のレクチャーも行うことで、一連の研究支援を切れ目無く行うことができるシステムを構築する。

結論:

1. 本支援システムを有効利用することで、多くの仕事が論文化された。
2. 早い段階から、「包括的な英文校正」支援を行うことで、効率的に論文化できる可能性が期待できる。
3. 受理されていない案件について、「包括的な英文校正」で支援し、早期の論文化を図る。
4. 国際学会で発表した仕事を論文化するためのストリームを用意することが必要である。
例えば、支援対象額を必要経費の 50% とし、論文化された場合には、全額援助するシステムにすることで、論文アウトプットのさらなる増加が期待できるものと思われる。

課題番号 : 26A201
研究課題名 : Promotion of research and development and its evaluation

主任研究者名 : Yukihiro Ishizaka
分担研究者名 :

Key Words : Young doctors, research, physician scientists

研究成果 :

This research grant (26A201) supported research activities of young physicians. Out of 27 researches applied for supports for publications, 14 drafts were accepted. Thirteen were applied for support of attendance and presentation at international scientific meetings. No papers on these works were published so far.

Further studies are required to develop a system, in which more numbers of papers would be published.

研究の流れ

H26

英文ドラフト



論文化

H27

論文シーズ
英文抄録



コンサルテーション
包括的な英文校正



論文文化

ドラフト作成の初期の段階からの支援

国際学会抄録

H28

H26とH27のアウトプットを参考にして、支援システムを改良する。

若手支援(26A-201)の平成26年度実績

(平成26年度実績)

・国際学会参加支援

13件

・英語論文作成支援

・英語論文の英文校正

14 / 27編

(受理) (支援論文数)

・英語論文作成レクチャー(初級・中級クラス)

9回

・臨床統計解析用PCの導入

5台

(内、2台は国府台)

研究発表及び特許取得報告について

課題番号：26指201

研究課題名：「研究開発の推進及び評価」に関する研究

主任研究者名：石坂幸人

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
An hour-specific transcutaneous bilirubin nomogram for Mongolian neonates.	Akahira-Azuma M, Yonemoto N, Mori R, Hosokawa S, Matsushita T, Sukhbat K, Nansal G, Bavuusuren B, Shonkhuuz E	Eur J Pediatr.	in press	2015
Associations between lower extremity muscle mass and metabolic parameters related to obesity in Japanese obese patients with type 2 diabetes	Hidetaka Hamasaki, Yu Kawashima, Hiroki Adachi, Sumie Moriyama, Hisayuki Katsuyama, Akahito Sako, Hidekatsu Yanai	Peer J	in press	2015
Associations of low-intensity resistance training with body composition and lipid profile in obese patients with type 2 diabetes	Hidetaka Hamasaki, Yu Kawashima, Yoshiki Tamada, Masashi Furuta, Hisayuki Katsuyama, Akahito Sako, Hidekatsu Yanai	PLOS ONE (accepted)	未定	2015
Daily Physical Activity Assessed by a Triaxial Accelerometer Is Beneficially Associated with Waist Circumference, Serum Triglycerides, and Insulin Resistance in Japanese Patients with Prediabetes or Untreated Early Type 2 Diabetes	Hamasaki H, Noda M, Moriyama S, Yoshikawa R, Katsuyama H, Sako A, Mishima S, Kakei M, Ezaki O, Yanai H.	J Diabetes Res	2015:526201.	2015

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
The efficacy of physiotherapy using RTX respirator against patients with pneumonia	三好嗣臣	19th Asian pacific society of respirology	インドネシア、バリ	2014年11月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。